

Robotics Report

新たな常識のはじまり

ポスト・インダストリー4.0を支える 知能化した協業ロボット

nikko am
fund academy



去る4月23日から27日にかけて、ドイツ(ハノーバー)で世界最大の産業技術の博覧会「ハノーバーメッセ2018」(以下、メッセ)が開催されました。今年はこの展示会と同時開催となり、約5,800社の企業・団体が出展し、約21万人の来場者で賑わいました。今回のメッセの大きなメッセージは、「産業システムの統合(Integrated Industry)」と「接続と協業(Connect & Collaborate)」で、中でもロボットテクノロジーが重要な要素として位置づけられたようです。

■ メッセで展示された次世代の協業ロボット

メッセでは、工場のスマート化や人間と産業用ロボットのデジタル的な融合による、生産性や効率性の向上を目指す「インダストリー4.0」を超えた、あらゆるモノ・ヒト・社会がデジタル統合した後に訪れるであろう未来の姿、『ポスト・インダストリー4.0』が提案されました。主催者側は、これまで接点のなかった異業種同志が互いにつながることで、生産性の向上はもちろんのこと、思いもよらない新たなビジネスモデルが次々と登場するだろう、と説明しています。また、物流とサプライチェーン管理の展示会「CeMAT2018」が同時開催された背景には、製造と物流の革新・融合も提案する、という主催者側のメッセージが込められていたようです。



©Deutsche Messe AG

今回のメッセでは知能化した産業用ロボットが出展されており、新しいタイプの協業ロボットを展示した、独「FESTO」が注目を集めました。同社の協業ロボットのアーム上部には、視覚センサが取り付けられており、協働する人間の身長や作業の動線などのデータを収集し、作業する高さを自動調整することにより、人間とよりスムーズな協業ができるような工夫がされていました。さらに、AI(人工知能)を活用した音声認識機能の搭載により、人間のスタッフのように言葉を聞き分け、さまざまなタスクを遂行することができます。

先進国での需要拡大が期待されている協業ロボットは、人間と一緒に作業ができる、という水準にとどまらず、「人間の分身」、「人間とデジタル世界を繋ぐハブ」の役割を担うところまで、高度化しつつあるのです。

■ 人間との接触を感知するロボット用ジャケット

FESTO以外にも、KUKAやABBなど世界の主要産業用ロボットメーカーが協業ロボットや関連ソリューションを展示する中、「人間とロボットの協業」をより具体的に実現するための周辺技術が公開されていました。その一つが、独ボッシュの子会社「ボッシュ・レックスロス」のロボット用ジャケットです。ジャケットには100個以上のセンサが付いており、ロボットの危険領域に人間が近づくと自動停止し、離れると再開する機能を備えています。さまざまなタイプのロボットに着用させることが可能で、人間とスムーズかつ安全に協業できることが利点だとされています。



©Deutsche Messe AG

2011年開催のメッセでコンセプトが披露されてから、瞬く間に世界へと伝播した「インダストリー4.0」は、早くも”その先”へ進もうとしています。『ポスト・インダストリー4.0』の主役は、“高度に知能化した協業ロボット”なのかもしれません。いずれにせよ、ロボティクスやAI産業に対する期待感はさらに高まっていくことになるでしょう。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有、非保有、および将来の個別銘柄の組み入れまたは売却を示唆するものでもありません。

(当レポートは、株式会社ロボティアの情報をもとに日興アセットマネジメントが作成しています。)

■当資料は、日興アセットマネジメントがロボティクスに関する情報についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。